



雲南市清流再生計画 雲南市ふるさと通貨交流計画

雲南市の地域再生計画が国の認定を受けました

地域再生計画とは

地域再生計画とは、地域が創意工夫を凝らし、資源や特性を活かした自主的な取り組みにより、地域経済の活性化や地域における雇用機会の創出などの地域再生に取り組む計画です。

またこの計画は、法規制の緩和を進める構造改革特区に続き、補助金制度の改革をめざすとされ、国からの認定により、積極的な支援を受けることができます。

雲南市ふるさと通貨交流計画

雲南市ふるさと通貨交流計画は、住基カード及び携帯電話を使った地域通貨システムを展開することで、市内生産及び消費の拡大により地域経済の活性化と都市住民等の交流人口の拡大を図るものです。

具体的には、都市圏域からインターネットを利用した特産品の購入やアンケート調査の回答、本市のPR活動及び市内の公共施設を利用した場合等にポイントを取得でき、貯まればそのポイントを利用して、特産品との交換や各種施設を割引利用することができるようになります。

また、住基カードの普及により、行政手続きオンライン化の推進にも活用します。



雲南市清流再生計画

雲南市清流再生計画は、市内の污水处理施設整備を促進し、河川の清流を再生することで、子どもたちが自然や生命に触れることのできる美しい川づくりを行うものです。



この計画に基づく国の支援として污水处理施設整備交付金があり、同交付金を活用することで、市で行っている公共下水道事業、農業集落排水事業、合併浄化槽事業について、年度間の事業量の変更や他の類似事業への充当が可能となり、一体的かつ効率的に事業を実施できます。

環境問題への関心が年々高まる中、市では下水道普及率の向上を図り、河川浄化等による本市のもつ地域資源の利活用、魅力の向上により、交流人口の拡大を図り、地域経済の活性化につなげます。

雲南市
島根大学

包括的連携に関する協定書調印



8月12日、島根県庁で、島根大学と雲南市との包括的連携に関する協定書の調印式がありました。
これまで雲南市では、島根大学と協力し、市民生活相談（無料法律相談所）の実施や地域医療シンポジウムの共催などをしてきました。
今回の協定書は、まちづくりや医療・福祉、環境問題など幅広い分野において、島根大学と相互協力し取り組んでいくためのものです。
この日は、大学側・市側から関係者20人が出席し、本田雄一学長と速水市長が協定書に署名・押印しました。
また、7月20日には、雲南市教育委員会と島根大学教育学部との間でも、連携に関する協定書の調印が交わされており、教育問題や生涯学習の推進について、連携・協働して研究、交流活動を進めていきます。

包括協定の 必要性

現代社会では、過疎・高齢化をはじめ地域医療、環境問題、振り込め詐欺などの消費者問題、少子化対策など幅広い分野において問題を抱えています。これらの問題は、年々複雑多様化しており、専門の知識を有する団体と密接な連携・協力による問題解決が必要となってきています。

そこで、総合教育・研究機関である島根大学との間において、包括的協定を締結し、市民が健やかに安心して暮らせるまちづくりをめざします。

9月11日(日)は衆議院議員総選挙(小選挙区・比例代表)最高裁判所裁判官国民審査の投票日です

雲南市は、市内のお住まいの区域により小選挙区が異なりますのでお間違いのないようご注意ください。

小選挙区	区	域
島根県第1区	大東町、加茂町、木次町の区域	(旧大原郡の区域)
島根県第2区	三刀屋町、吉田町、掛合町の区域	(旧飯石郡の区域)

雲南市の選挙人名簿に登録されている方で、最近市外へ転出された方や8月23日以降に市内転居をされた方は、旧住所地の投票所で投票することとなります。

入場券は、郵送により個別に送付しますので、入場券を持参のうえ投票に行きましょう。

ご不明な点は、雲南市選挙管理委員会(☎0854-45-0141)または各総合センター総合調整課までお問い合わせください。

いきいき雲南



殊のほか暑い夏です。今年は、雲南市も7月、9月の間、仕事は軽装でとなりました。時を同じくして国の機関でも取り組まれ、クールビズが流行語となっています。半袖にノーネクタイはたしかに涼しく、この時期に合ったスタイルと思えます。省庁主催の事業に参加する際、大臣も軽装で出席するので、参加者もそのようにとの国からの通知文も届いています。

しかし、地方から上京すれば、民営官ありといろいろな先を訪問します。となれば軽装では失礼と思われる先もあることから背広、ネクタイでの上京スタイルとなりがちです。

したがって、省庁主催の会議場までは地方からの参加者はほとんど背広、ネクタイ姿。それが会場に着くと皆さん一斉に背広を脱ぎ、ノーネクタイ姿に。

会場に着いてやれやれとの思いでの軽装と思うのですが、通知文効果の方が大きいと思えるクールビズ一色の光景は、かなり違和感を覚えます。

自らの地域は自らで創るのが地方分権。服装の選択は、その序の口にもなりません。

(雲南市長 速水雄二)